2019 年度
パリ国立高等美術学校
×
武蔵野美術大学
協定校プロジェクト II

École nationale supérieure des Beaux-Arts
×
Musashino Art University Painting Course
Partnership University Project II
2019

武蔵野美術大学 油絵学科油絵研究室

2019 年度 パリ国立高等美術学校×武蔵野美術大学 協定校プロジェクト II を終えて

油絵学科では 2019 年 10 月 22 日より 11 月 3 日にかけてパリ高等美術学校との協定校プロジェクトを行った。

今回のプロジェクトは一昨年のボザールでのフレスコ制作の経験を土台とし発展させ、実際に洞窟壁画の地へ赴き、本物の洞窟壁画を鑑賞し、その経験をもとにフレスコの制作をするというプロジェクトであった。前半はフランス南西部ヴェゼール渓谷に点在する先史時代の洞窟および洞窟壁画を 4 日間かけて見学したが、重要な洞窟や洞窟壁画を集中的に訪問、鑑賞できたことは極めて貴重な体験となった。人間の存在する根源的な意味を内包する場所と痕跡は、表現することの意味を再考させ、学生達に大きな活力を与えたに違いない。

後半はボザールにおいて、芸術哲学や先史時代の洞窟壁画のレクチャーを織り交ぜながら 3 日間をかけてフレスコ画の制作を行ない英語による作品のプレゼンテーションを行なった。ワークショップ最終日のギャラリーにおける両校の学生による展覧会では、互いの作品を展示することで生まれる予測不能な交流が、言語による交流を超えることを実感しただろう。

しかし海外で行うワークショップの意義は美術という領域における体験や学習といった枠組みに留まらない世界人としての自己に目覚める点にある。それは、とりもなおさず自身の姿を新しく認識することであり、その視座が造形行為をより客観的で質の高いものに押し上げてゆき、ひいては人間としての自身のあり様への問いかけとなる。このような内発的な気づきの生まれるところに国際交流の本質的な意義がある。学生達は今回の様々な出会いをどのように感じ考え、そして次のステップに繋げてゆくのだろうか。彼らの今後の展開を期待したい。

樺山祐和
武蔵野美術大学油絵学科油絵専攻　教授

Upon completion of the 2019 Ecole Nationale Superieure des Beaux-Arts de Paris × Musashino Art University Collaborative Project 2

From 22 October through 3 November 2019, our Oil Painting Department engaged in a Partner School project with the École Normale Supérieure des Beaux-Arts de Paris. Building and expanding upon our experience of doing fresco paintings at Beaux-Arts two years previous, we visited actual sites of cave paintings, viewed genuine cave paintings, and created fresco works based on that experience.

In the first half of our stay, we spent four days touring the prehistoric caves and cave paintings scattered about the Vézère Valley in southwestern France. Being able to intensively visit and appreciate these important caves and cave paintings was an extremely valuable experience. These sites and remnants of the fundamental meaning of human existence allowed us to reconsider the meaning of expression and provided our students with great vitality.

In the second half, we spent three days at Beaux-Arts doing frescoes, hearing lectures on art philosophy and prehistoric cave paintings, and giving presentations of our works in English. On the final day of the workshop students from both schools exhibited their works in the gallery, allowing us to realize that the unpredictable interactions arising from viewing each other's works go beyond any language-based interactions.

However, the significance of participating in an overseas workshop is to realize oneself as a world citizen who is not bound by the framework of experience and learning in the field of art. It is, in other words, a new recognition of one's own form, and that perspective raises the act of artistic creation to a more objective and high-quality state, one that in turn becomes an inquiry into our own state as human beings. The essential significance of international ties lies in the birth of such intrinsic awareness. I look forward to seeing how our students develop in the future.

Sachikazu Kabayama
Professor
Painting Course, Department of Painting
Musashino Art University

カドゥイン ユースホステル (Auberge de Jeunesse Cadouin) にて集合写真。シトー派教会の元修道院施設。ユネスコ文化遺産登録
A group photo at the Cadouin Youth Hostel (Auberge de Jeunesse Cadouin), a facility at a former abbey of the Cistercian church and a registered UNESCO World Heritage site.

プロジェクト行程

10 月 22 日 (火)【1 日目】
8:00 成田国際空港集合
10:35 出国
16:10 シャルル・ド・ゴール国際空港着
19:30 ボザール着、歓迎会 (於ペヌカン教授フレスコアトリエ)、学生寮入寮

10 月 23 日 (水)【2 日目】
6:45 ボザール学生寮前集合
7:49 パリ・モンパルナス駅発 (TGV)
12:48 サルラ着
13:00-14:00 昼食、レンタカー借用
16:00 クニャック洞窟 訪問
19:30 ユースホステル到着
20:00 夕食

10 月 24 日【3 日目】
8:00 朝食
10:30 ルフィニャック洞窟 訪問
12:30 モンティニャック到着
13:30 ラスコーⅣ訪問
16:00 ラスコー II 訪問《声のワークショップ》講師：Vincent Rioux 氏
19:30 夕食

10 月 25 日 (金)【4 日目】
7:45 朝食
9:30 プルメイサック洞穴訪問《楽器のワークショップ》講師：Vincent Rioux 氏
12:30 昼食
14:15 カプ・ブラン岩陰遺跡 訪問
16:30 グラン ロック洞窟 訪問
20:00 夕食

10 月 26 日 (土)【5 日目】
8:00 朝食
9:30-12:30 サルラ・ラ・カネダ 散策
12:30-13:00 昼食
15:30 ペシュ・メルル洞窟 訪問《手拍子のワークショップ》講師：Vincent Rioux 氏
19:30 夕食
21:00- 参加者作品プレゼンテーション (於ワークルーム、映像資料投影)

10 月 27 日 (日)【6 日目】
7:30 朝食
9:00 ホステル発、駅へ移動　レンタカー返却
11:04 サルラ駅発、車内で昼食
16:08 モンパルナス着

10 月 28 日 (月)【7 日目】
9:30-12:30 フレスコワークショップ　講師：Philippe Bennequin 教授《壁面準備・材料準備・下地制作》
12:30-13:30 昼食
13:30-17:00《一層目定着・二層目下地制作》
18:00-19:30 レクチャー「Biface, stones of dreams, the birth of space.」
講師：Philippe Sers 氏 (芸術哲学) 通訳：飯沼 洋子氏

10 月 29 日 (火)【8 日目】
9:30-12:00《二層目定着・研磨》
12:00-13:00 昼食・画材屋見学
13:00-17:30《描画》
18:00-19:30 レクチャー「先史時代の洞窟芸術」 講師：Patrick Paillet 氏 (自然史博物館研究員) 通訳：粂 陽子氏

10 月 30 日 (水)【9 日目】
9:30-12:00《描画》
12:00-13:00 昼食
13:00-15:00 展覧会準備 (ボザール構内ギャラリー)
15:00-17:00《画縁カット・完成》
17:30-21:00 日仏学生合同展覧会オープニングレセプション

10 月 31 日 (木)【10 日目】
18:00-19:00 ボザール施設・アトリエ見学

11 月 1 日 (金)【11 日目】
17:00 展覧会撤収
18:00-19:30 フレスコワークショップ講評会
20:30-11:00 送別会

11 月 2 日 (土)【12 日目】
8:00 ボザール学生寮前集合
9:45 シャルル・ド・ゴール国際空港着
14:00 出国

11 月 3 日 (日)【13 日目】
9:10 成田空港着　　解散

《ヴェゼール渓谷の装飾洞窟と先史遺跡》
フランス南西部のヴェゼール渓谷 (40km ほどの間に広がっている地域）に点在する先史時代遺跡群のうち、ユネスコによって選定された 25 の洞窟と 147 の集落跡など重要性の高い物件の総称。
中でもクロマニョン人が描いた岩絵・壁画が有名。

【構成】
・洞窟壁画のある遺跡群
アブリ・デュ・ポワソン
フォン＝ドゥ＝ゴーム洞窟
ムート洞窟
コンバレル洞窟
アブリ・ドゥ・カプ・ブラン（カプ・ブラン岩陰遺跡）★
ラスコー洞窟　★
ルーフィニャック洞窟　★
ロック・ドゥ・サン＝シルク

・洞窟壁画のない遺跡群
アブリ・ドゥ・クロ＝マニョン（クロ＝マニョン岩陰遺跡）ミコック
ロジュリー＝バス
ロジュリー＝オート
グラン・ロック洞窟　★
アブリ・デュ・ムスティエ（ムスティエ岩陰遺跡群）
アブリ・ドゥ・ラ・マドレーヌ（マドレーヌ岩陰遺跡）

※★は今回のプロジェクトで訪れた洞窟を示す。

Day 1, October 22

シャルル・ド・ゴール国際空港からロワシーバスへ乗車

パリ国立高等美術学校到着、歓迎会 (ベヌカン教授、フレスコアトリエにて)

パリ国立高等美術学校　学生寮 入寮

Day 2, October 23

パリからサルラ - ラ - カネダへ列車で移動。駅でボザールの学生と初対面。電車内ではすでに両校の学生が打ち解け始めていた。そこからさらに車で 2 時間程南下して洞窟のある地域に到着した。今回のプロジェクトではベヌカン先生、バンセントさん、ラウガご夫妻に運転してもらい 2 台のバンと乗用車 1 台で移動した。両校合わせて総勢 20 名での洞窟訪問がはじまった。

クニャック洞窟 (Les Grottes de Cougnac)

フランスのロート県にある後期旧石器時代の洞窟美術遺跡。洞窟は 95m の主洞と 23m の支洞からなり、天井の高さは 3 ～ 6m。入口から最深部までぎっしり鍾乳石におおわれている。オーリニャック期に属する壁画 (1952 発見) が最深部に近い左壁にあり，約 20 点の鹿，ヤギ，象，人物などが赤褐色または黒色の輪郭線で描かれている。それぞれの描線には時に千年以上もの時間の隔たりがある場合もあり、途方も無いスケールを感じさせる。

Day 3, October 24

ルフィニャックの洞窟壁画 (Rouffignac)

黒の単色または線刻でマンモス，サイ，馬，ヤギ，ビゾンがあらわされ，いずれもマドレーヌ期のもので，とくに粗略に描かれた黒のデッサンはマドレーヌ期初期に属する。地下水によって削られた洞窟が全長 10㎞にも及ぶ。「百頭のマンモスの洞窟 Grotte des Cent Mammouths」と呼ばれるこの洞窟に、先史人達によって多くの動物壁画が描かれている。マンモスの洞窟壁画は例が少なく、洞窟全体で 150 頭近くのマンモスが描かれているが、Rouffignac 以外の洞窟には殆ど例がない。洞窟内は主にトロッコで移動する。

ラスコー洞窟（ Grotte de Lascaux）

フランスの西南部ドルドーニュ県、ヴェゼール渓谷のモンティニャック村の南東の丘の上に位置する洞窟。先史時代（オーリニャック文化）の洞窟壁画で有名である。洞窟の全長は 200 メートル程度。地下に長く伸びる洞窟は枝分かれし、壁画が集中している大空間などがいくつかある。洞窟の側面と天井面（つまり洞窟の上半部一帯）には、数百の馬・山羊・羊・野牛・鹿・かもしか・人間・幾何学模様の彩画、刻線画、顔料を吹き付けて刻印した人間の手形が 500 点もあった。これらは 20,000 年前の後期旧石器時代のクロマニョン人によって描かれていた。炭酸カルシウム形成が壁画の保存効果を高めた「天然のフレスコ画」と言うことができる。
1948 年代は一般公開され、大勢の観客を洞窟内に受け入れていたが、観客の吐く二酸化炭素により壁画が急速に劣化した。1963 年以降から、壁画の外傷と損傷を防ぐため、洞窟は閉鎖された。現在は壁画修復が進む一方、一日に数名ごとの研究者らに応募させ入場・鑑賞させているほかは、ラスコーの壁画の原物は 1963 年 4 月 20 日に非公開とされている。

ラスコーII（Lascaux II）

職人の手仕事により再現されたラスコー洞窟のレプリカ。ガイドが松明の火で照らしながら、当時の様子を再現してくれる。今回のプロジェクトでは洞窟内外でで音と光のワークショップも行った。

Day 4, October 25

ゴンドラで天井の穴から降りて来る。フルートや縦笛を持ち込み反響する音を使ったワークショップを行った。

プルメイサック洞穴 (Gouffre de Proumeyssac)

プルメイサック洞穴は、Grotte 洞窟ではなくて Gouffre 洞穴とでも表現したらいいのか、地下がぽっかりと空洞になっている。地上からの入り口は、とても小さくて、直径 1m50 ほどの円柱型のゴンドラ籠に乗って降りる部分のみしかないのに、数メートル降りると、急に、丸い空洞状の（とてつもない）世界が広がっている。
深さは、50m。途中の壁面には、鍾乳石がクラゲみたいな形を成していたり、女神に見えたり一宇宙の別世界に迷い込んだような、壮大な光景が待っている。着地したゴンドラ籠から、洞窟の地面に降り立つと、気温はぐっと低くなって、すぐ足元に広がっている（滴り落ちてくる水滴が溜まってできた）小さな池は、上部の淡い照明を受けて、氷のような冷たい色を放って輝いている。

カプ・ブラン岩陰遺跡 (Abri de Cap Blanc)

レリーフ状の馬や牛の壁画が見られる。自然にできた岩陰に沿って、動物の形が浮かび上がるように薄い窪みで彫り込まれている。この遺跡の付近で人骨の遺跡も発見されたことから、墓のような意味合いがあったのではないかと推測されている。

グラン・ロック洞窟（Grotte du Grand Roc）

1927 年に建てられたグラン・ロックの特色は、「鉱物の森」へと進化する印象を与える並外れた奇抜な形成にある。 ツアー全体を通して、石、偏心結石、f、妖精、三角形、柱、カーテンなど、非常に多様な結晶が絡み合う。 水にミネラル粒子が存在すると、赤（酸化鉄）、黄土色（粘土）、黒（マンガン）などのさまざまな色が生じる。サモトラケのニケやキリスト母子像、十字架などに見える結晶がある。

Day 5, October 26

サルラ＝ラ＝カネダ (Sarlat-la-Canéda)

ドルドーニュ県のコミューン (日本でいう市町村に当たる基礎自治体単位)。カロリング朝時代発祥のベネディクト会派修道院の周りで発展した中世都市である。領主としての修道院は 13 世紀に頂点に達した。サルラ＝ラ＝カネダはマルロー法が最初に適用された街。（マルロー法…1962 年に施行された歴史的街並みの保存、修復のための制度）美食で知られるペリゴール地方にあり、トリュフ・フォアグラ・くるみ・セップ茸などが有名。

ペシュ・メルル洞窟
(the Cave of Pech-Merle)

フランス南西部，ロー県カブルレ Cabrerets 村にある旧石器時代の洞窟壁画遺跡。ペク・メルルともいう。1922 年に土地の少年によって発見された。延長 2km の長大な洞窟で，複雑なプラン (平面) をもつ。ペリゴール期とマドレー、期のビゾン、馬、牛、マンモス、手形、斑点、人物など、多くの形象があらわされている。〈主室〉にはしりを向けあった 2 頭の馬が線描と平塗りを併用して描かれているが、これらの馬と関連する三つの陰型の手形は当該動物をとらえるという呪術的意味を有する。

夕食後の交流会。自作品を映像投影し、英語で作品のプレゼンテーション。ホテルのミーティングルームにて。

Day 6, October 27

この日は朝からサルラ駅に戻り、パリに戻る電車に乗った。写真は電車を待つ間の一幕。昼食を食べ、ラウガ夫妻とお別れした。パリ到着後は翌日から始まるフレスコ制作に備え、学生たちは寮で暫し休養した。

滞在していたカドゥイン ユースホステル (Auberge de Jeunesse Cadouin) 。シトー派教会の元修道院施設。ユネスコ文化遺産にも登録されており厳粛な作りながら暖かさを感じさせる。食事もとても美味しかった。

Day 7, October 28

パリ国立高等美術学校 ベヌカン教授のフレスコアトリエ。ベヌカン教授はフレスコが専門。この日から 3 日間フレスコの特別授業が始まる。なお並行して日本から持参した作品での展覧会準備行った。

まず描画する壁を確保するためすでにあるフレスコを壊す。

制作する範囲を決める。

残ったフレスコを放水して除去し、壁を湿らせる。

砂を用意する。

そぼろ状になるまで耕す様に混ぜる。

コテでダマを潰すように混ぜる。

木材も使い潰すように混ぜる

徐々に水を増やし耕すように混ぜる

最後は柔らかいアイスクリームのような質感に

一層目を壁に付着させる。

八の字を描く様に優しく磨き、画面を滑らかにする。

板を使ってさらに丁寧に平滑にしていく。

今日はここまで！濡れた布を被せて乾燥しないようにする。

特別講義　"Biface, stones of dreams, the birth of space."

通訳：飯沼 洋子氏

Mr.Philippe Sers

フィリップ・セルス氏 (芸術哲学)

Day 8, October 29

二層目を載せる。

金属の小手でツルツルの石板のようにしていく。傷つかないよう慎重に。

線描で下絵を描画していく。

描画は顔料を水で溶いて行う。

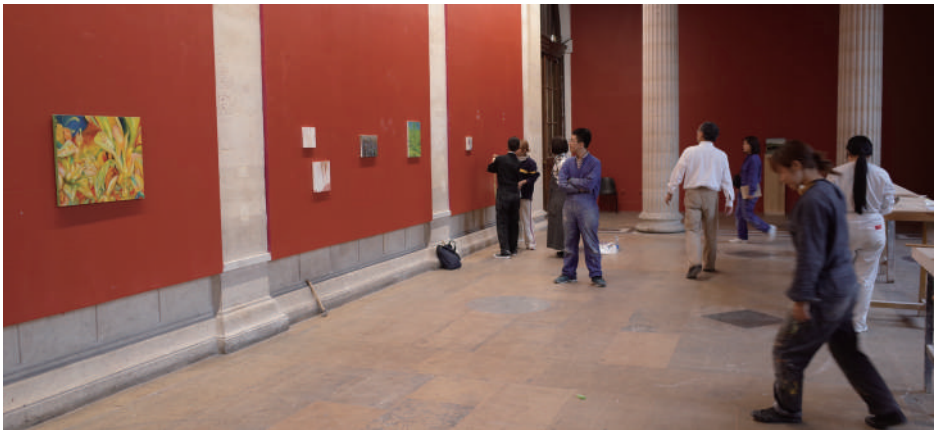
描画した部分は消すことはできない。描いた部分も金属の小手で撫でることで定着させる。

薄塗りの色彩を丁寧に重ねていく。

完成したら定規を当てて、いらない部分を削ってトリミングする。

校内見学。ボザール校内の教会。卒業生であるミケランジェロのレプリカが多数所蔵されている。正面奥は「最後の審判」。

ボザールのアトリエ内部も見学



ボザールの校内のギャラリーで日本から持参した作品を使って展覧会準備。ボザールの学生と合同で展示を行った。

Day 9, October 30

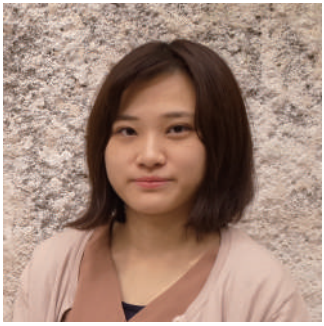
展覧会レセプション

Day 11, November 1

フレスコワークショップ講評会

岩崎 美帆
IWASAKI Miho

今回のプロジェクトでは、古代の洞窟壁画を鑑賞し、フレスコという古典的な技法を体験した。また、ボザールでの展示では未来へ繋がるような想像ができた。また、フランスで様々なバックグラウンドを持つ人々と、美術を通して交流ができた。この旅では歴史的な縦の流れ、地理的な横の流れに自分を置くことができ、視界が広がる経験になった。



川鍋 理沙

KAWANABE Lisa

今回のボザールとの協定校プロジェクトは私にとって興味深いことばかりでした。洞窟や洞窟壁画の見学、フレスコ制作は私の絵画制作に影響を与えました。またボザールの大学講義の見学、教授や生徒達との交流は私の大学卒業後の進路を考えるにあたって非常に参考になりました。

酒井 玲美

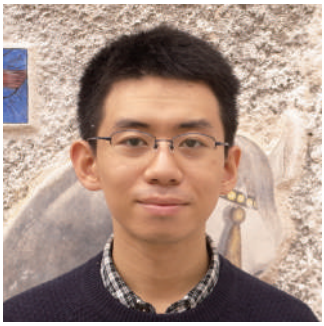
SAKAI Reimi

人間。人間が大きなテーマだったと考えます、今回の旅において。景色や洞窟壁画も素晴らしかったですが、何より向こうの人たち、関わって話をして一緒に旅をしてくれた皆んなが頭の中に強く焼き付いています。思い出すと恋しくて悲しくなります。それくらい良い時間でした。

杉本 暁

SUGIMOTO Akira

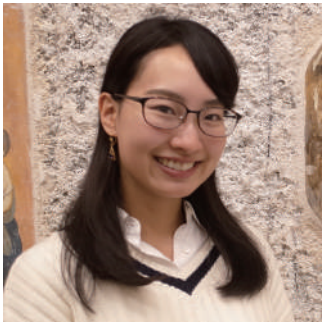
私は、今回の 2 週間に渡るパリ国立高等美術学校（ボザール）との交流プロジェクトを終えて、美術についての考え方が大きく転換したように思います。またそれによって、自分の絵画表現のあり方を見直す大切な きっかけとなったと感じています。

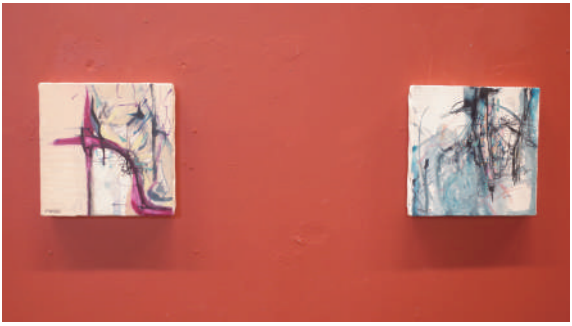


沼田 美月

NUMATA Mizuki

このように、数万年前の深い歴史から、最近の事情をふまえてフランスを考察してきましたが、どれも興味深くさらに追求していきたいと感じるものばかりでした。環境が絵画に与える影響は多大なものだと、いつの時代の作品を見ても考えます。今の時代に生きる日本人の私だからこそ作れる作品があることもまた、明確な事実として受け止めています。これからの制作をよりよくしていくために、国を問わずコミュニケーションをし見聞を広め、自分を見つめ直すことが１番の近道なのだと考えます。これからもフットワークを軽くし、尊厳を失わず努力していきたいです。





藤木 智慧

FUJIKI Chie

フランスでは移民問題やテロなどの事件が根深く残っており、危険な状態が続いている地域もある。しかし今回のプロジェクトで、共にまだ「国境」という概念がなかった時代の作品を見学し、作品の展示をしたり、制作をする様子を見聞きしたりする中で、我々は言葉が通じなくとも「芸術作品」を通して互いの価値観を共有でき、また刺激し合えたのではないかと考えた。そして筆者自身、この美術の古代から伝わる永遠性や人々を繋げる力を存分に表現するためにも、さらにたくさんの国・時代・ジャンルの作品を学び技術を磨いて制作していきたいと考えている。

本間 由佳

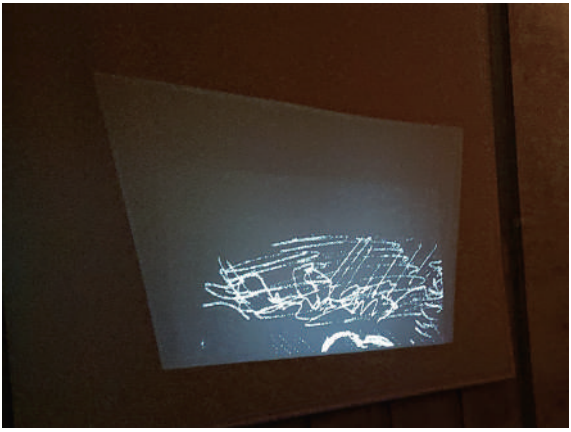
HONMA Yuka

MAU STUDENT'S WORK

ボザールの協定校プロジェクトは、自分の中の海外の世界を少し身近に感じるきっかけになったように思う。海外経験がそんなに無く、当初は不安だったのだが、いざ現地について、ボザールの学生達と話すと皆気さくで、パリに住む人々もスリなどの危ない存在はいるものの基本は困っているところを簡単な英語で説明してくれたりと親切で、パリがただ美しいだけじゃ無く、もう少し滞在したらまた新たな発見が得られる場所のように思えた。実際に行ってみることで伝え聞いたものよりリアルな経験が得られたのも非常に良かった。また、海外から日本に戻ることで、自身が日本人であるというアイデンティティーを再確認したような気がした。今回の経験を踏まえて自身の作品制作に生かせたらと思っている。

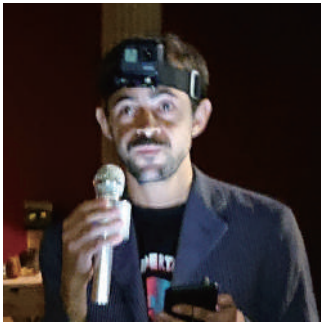
BEAUX-ARTS STUDENT'S WORK

DOUMMAR Brune
ドゥマー・ブラウン



FURET Céline
フェレット・セリーヌ

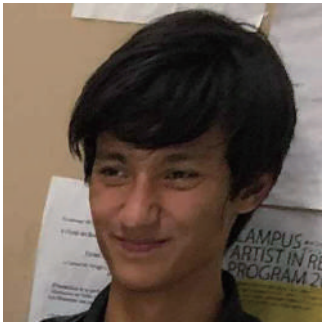
EFRITA Benjamin
エフリタ・ベンジャミン

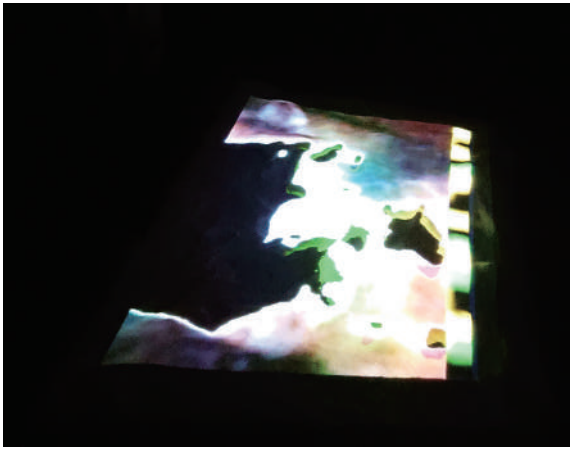


BEAUX-ARTS STUDENT'S WORK

BENSIMON Mathias

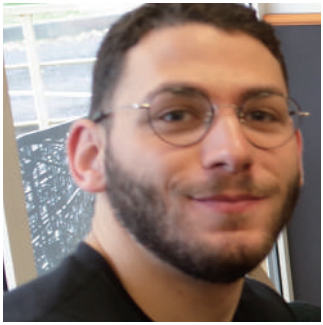
ベンシモン・マティアス





DANON Jérémie

ダノン・ジェレミー



TRIF Norma

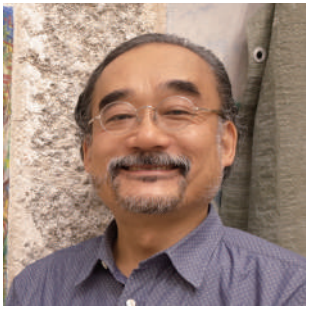
ティフ・ノーマ

MAU TEACHERS

Proffesor

樺山 祐和

KABAYAMA Sachikazu



Research Associate

芹田 真奈美

SERITA Manami

Research Associate

倉田 悟

KURATA Satoru

Special Thanks To...

Proffesor
BENNEQUIN Philippe
ベヌカン・フィリップ

RIOUX Vincent
ルクス・ビンセント

LAUGA Jany & Philippe
ラウガ・ジャニー & フィリップ

通訳
粂 陽子
KUME Yoko

徳永 陶子
TOKUNAGA Toko

飯沼　洋子
IINUMA Yoko

2019 年度 パリ国立高等美術学校×武蔵野美術大学 協定校プロジェクト II
École nationale supérieure des Beaux-Arts × Musashino Art University Painting Course
Partnership University Project II in 2019

日程：2019 年 10 月 22 日 (火) – 11 月 3 日 (日)
場所：パリ国立高等美術学校、ドルドーニュ県ヌーヴェル＝アキテーヌ地方 (フランス)

主宰
Philippe Bennequin　フィリップ・ベヌカン (パリ国立高等美術学校教授)
樺山 祐和 (武蔵野美術大学油絵学科教授)

通訳
粂 陽子
飯沼 洋子
徳永 陶子 (武蔵野美術大学油絵学科非常勤講師)

参加者
《武蔵野美術大学造形学部油絵学科油絵専攻 4 年生》
岩崎 美帆
川鍋 理沙
酒井 玲美
杉本 暁
沼田 美月
藤木 智慧
本間 由佳

《パリ国立高等美術学校学生》
Bensimon Mathias　ベンシモン・マティアス
Danon Jérémie　ダノン・ジェレミー
Doummar Brune　ドゥマー・ブラウン
Furet Céline　フェレット・セリーヌ
Trif Norma　ティフ・ノーマ

引率
芹田 真奈美　(油絵学科油絵研究室助手)
倉田 悟　(油絵学科油絵研究室助手)
Vincent Rioux　ビンセント・ルクス (パリ国立高等美術学校 教員)

協力
Lauga Jany　ラウガ・ジャニー (パリ国立高等美術学校 元教授)

製作
　武蔵野美術大学油絵学科油絵研究室

印刷
　株式会社アトミ